

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070701711
法人名	株式会社 深田商店
事業所名	八幡西ケアセンター 和が家
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区御開3丁目9番53号 (電話) 093 - 601 - 3503

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年1月11日

【情報提供票より】(平成19年11月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	有(140,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(315,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500円		

(4) 利用者の概要(11月8日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2		4 名	
要介護3	5 名	要介護4		3 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82.8 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まつもと内科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム八幡西ケアセンター和が家は、鉄骨造り2階建ての2階に位置し、2ユニットを有する。1階には、同一法人が運営するデイサービスが併設され、日常的な交流が行われている。職員は、理念と自ら作成したユニットごとの基本方針のもと、「グループホームらしさ」の追求に、入居者・家族・地域と共に取り組んでいる。例えば、運営推進会議の議事録からは、忌憚のない意見交換や、より専門的になってくる質疑応答等、会を重ねるごとに議論が深まっていることが確認でき、家族と地域の理解と協力が、主体的であることが確認できる。また、職員もその思いに応えるべく日々奮闘している様子が、センター方式を導入した「介護計画書」の作成過程の書類や日誌など日々の記録から確認できる。併せて、入居者の基本情報を始め、日誌・マニュアル等もよく整備されており、入居者の状態変化による「計画書」の見直し等にも効果的に対応できる仕組みが構築されている。さらに職員は、ダンスやギター等、各々の特技をイベント等で披露したり、共に楽しめる暮らしの支援を行っている。本ホームは、職員・入居者・家族・地域が、話し合い、力を合わせながら、共に歩み、成長しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	構造上の理由や勤務体制上での事柄など引き続き、検討中のあるものがあるが、改善可能な玄関周りの家庭的な雰囲気づくりや事故防止対策・金銭管理等積極的に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、指摘事項については、随時、職員間で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。また運営推進会議の議題として取り上げる等、透明性の確保にも評価を活用している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	外部評価は、運営推進会議の議題として取り上げる等、運営面での透明性の確保にも、評価を活用している。運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、地域や家族の方々の参加のもと、忌憚のない意見交換がなされていることが議事録から確認できる。その内容についても、回を重ねるごとに質問より専門的になり、議論も深まっており、運営推進会議をサービスの質の向上に活かす取り組みに積極的である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会の機会を捉え、入居者の近況を報告している。毎月の便りに職員からの手紙を同封している。運営推進会議には、多くの家族が出席し意見を述べられ、グループホーム「和が家」をもちたてていく熱意がみられる。入居者の状態が、重度化や終末期という状況は避けて取れない課題となっており、運営推進会議のたびにテーマとして掲げ話し合いを重ねている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会長が協力的で、行事の度に案内があり、運動会等に参加し、交流を深めている。地域の方が利用しているデイサービスが1階にあり、日常的に行き来し合える関係ができています。地域の方を招いて催し事をしたり、近隣の散歩時には気軽に声をかけて頂いたり、庭にある花や果実をいただくなど地域との「ふれあい」を大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご高齢者が地域でいつまでも和やかに安心して暮らしていただける為に必要な社会福祉事業」を運営理念として掲げ、玄関ホール、フロアに提示しており、地域密着型の趣旨を踏まえた事業所独自の理念がある。またその理念のもと、ユニットごとの基本方針をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2ユニットでそれぞれの特徴も生かし、理念に基づき、ユニットごとの基本方針も一緒に唱和している。新人や若いスタッフには共有できるまで繰り返し、入職時を始め、勉強会・研修等、折にふれ説明を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長が協力的で、行事の度に案内があり、運動会等に参加するなど交流を深めている。地域の方が利用しているデイサービスが1階にあり、日常的に行き来し合える関係ができ、地域の情報交換等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、指摘事項については、随時、職員間で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。また、外部評価を運営推進会議の議題として取り上げる等、グループホームの運営面など透明性の確保にも評価を活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、地域や家族の方々の参加のもと、忌憚のない意見交換がなされていることが議事録から確認できた。その内容についても、回を重ねるごとに質問より専門的になり、議論も深まっている点で運営推進会議を活かした取り組みが高く評価できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時相談し、より良いサービス提供を心がけているが、更なる連携を期待したい。		日々懸命にグループホームの特性を活かした介護を追究されているので、相談だけに終わらせず、問題提起や情報発信等、積極的な働きかけを期待したい。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	制度についての案内を玄関に掲示し、相談には応じられるように努めている。また、実際に制度の入居者がいることから、職員は勉強会を通して理解を深めている。今後は新人もいるので、制度を利用されておられる方の事例を通して勉強会を行う予定がある。		
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時を利用して近況報告を行っている。毎月、請求書の送付時に、金銭出納帳(写)、職員からの手紙・スナップ写真等を同封している。急を要する場合等、必要に応じて電話連絡を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に市町村相談窓口を記載し、玄関にも掲示している。運営推進会議が、家族の意見の聴取の場として活用されている。議事録から活発な意見交換が確認できる。また、介護計画作成(見直し)時には、家族に積極的に意見を求めるように努め家族の意見や意向を常に把握するように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループ・ホーム内の職員の移動は行わない方針がある。職員が退職したり、新しく採用があったり、職員の動きの際には入居者が混乱しないように、なじみの関係に配慮した支援を行っている。退職や新人が入職する場合は、入居者が混乱しないようベテラン職員がカバーする等、十分に配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	「この仕事が好きかどうか。入居者と共に暮らせるかどうか」を1番のポイントに、年齢・性別を問わず採用している。運営理念にそって、職員の思いを受け入れ、相談しながら、より働きやすい職場の実現に努めている。「職員には必ず特技がある」という観点から職員の得意分野を活かし、フラメンコやハワイアン等の趣味や習い事を披露する機会を作るなど工夫がある。また、働きやすい環境づくりのために職員の報連相シート・指導する側のシートを用い、定期的な面談を行い、ストレスをためないように注意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	新人研修やカンファレンスの場で、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。「自分であったらどうか」、「人間的とは何か」という観点を大切にしている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月を区切りに、段階に応じた独自のチェックリストを配布し、自己評価及び面談によるフィードバックを実施している。面談を利用して、管理者が職員と話す機会を持つよう努めている。月に1回のカンファレンスでは、多岐にわたるテーマで学習していることが、議事録より確認できる。人員配置の都合上、内外の研修の機会が減少している。		外部研修への参加を奨励しているところである。外部研修は同業者との交流を深め、自らの仕事を再認識することができる。また、若い職員には資格も習得できる講習会等の受講を支援し、高齢者・認知症の介護の専門家を育てられることを期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近隣の施設やグループ・ホームと情報交換・訪問を行っており、活発に交流している。地域内にグループホームが2軒、特養が1軒、有料老人ホームが1軒あり、地域の会合や運動会で必ず一緒になる。日常的に電話等で、業務上の相談や情報交換を行ったり、気軽に行き来し合える関係を築いている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	何度か訪問や体験入居(2泊3日、希望によっては1週間可)を通して、グループホームの特性を説明し、話し合った上で、本人のニーズに合うサービスをすすめながら、施設選びを含め、なじみながらのサービス利用に努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	生活歴から、本人ができることや意向・楽しみを把握し、共に支えあい、「気持ちの上での共同生活」ができるように努めている。包丁を使うのが上手な方には、調理のお手伝いを、悩み事を聞いてくれる方に相談を持ちかけ、90数年見事に生きてこられた方には人生訓をうかがうなど人生の先輩として職員は関わり、共に支えあう関係づくりができています。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式を取り入れている。一連の書類から、入居者一人ひとりの人物像が浮かび上がってくる過程が確認できる。ADLや生活歴・健康状態・本人・家族の要望等、「情報シート」が詳しく記載され、本人本位のニーズの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	計画書作成時には、本人・家族の希望・意向、及び主治医の意見を聴き、その反映に努めている。一番身近で観察している担当者が原案をつくり、その後スタッフ全員でカンファレンスを行って作成している。カンファレンスには時間をかけ、「誰が、いつ、何をするのか」が具体的、かつ詳細に記載されている。		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1回の見直しを基本に、退院後と状態に変化の見られた場合には必ず見直しを行なっている。項目ごと詳細に記載された生活日誌・健康日誌・受診の記録が、個人別に分かりやすく整備され、効果的な「介護計画」の見直しが実施できる仕組みが構築されている。		
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	母体の深田グループの総合介護事業のノウハウが蓄積されている。1階のサービスと常に連携がとれている。地域の力として、町内自治会・商店街・幼稚園等の交流が活発である。職員は、それぞれの特技があり、その特技を行事・催し物に活かし、入居者が楽しみにしている。		
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	かかりつけ医については、本人と家族の希望を大切にしている。入居により、かかりつけ医を変更した場合でも、これまでのかかりつけ医と継続して、情報交換を行い、適切なアドバイスや支援が受けられるように努めている。受診について、家族の対応が困難な場合は、求めに応じて、職員が同行している。往診は2週間に1回行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族との協議を重ねた結果、「グループホームらしさを保って欲しい。医療機関になって欲しくない」との家族の意向を踏まえた方針に至り、全員で共有している。重度化が予想される今後について、かかりつけ医や家族と話し合いを持ったり、毎月の運営推進会議で議題に取り上げるなど話し合いを行っている。</p>		<p>入居者及び家族の思いは、固定的ではなく、変化するものという観点も踏まえ、現在の方針に終始することなく、一人ひとりの思い・状態・環境に応じた柔軟な対応を目指して、現在の議論を、より深めてゆくことを期待したい。</p>
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報については、使用目的や内容を文書により、明確にし同意書を作成している。入職時の研修やカンファレンス時に、「小さなことの配慮を忘れないように」と徹底して話している。また、職員は入居者の居室は大事なプライベートな領域として行動している。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日のスケジュールは特に定めず、その日の入居者の意向や職員との話し合いで柔軟に対応している。外出・散歩・ドライブを含め、業務優先にならないように務めている。日々観察し、その人のペースや希望を把握し、計画で共有化している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立については、栄養士が作成したものが基本としてあるが、入居者の希望によって、随時変更できるようになっている。旬のものを食材に取り入れたり、「食」で季節を感じる工夫に努めている。米研ぎや盛り付け・食器洗い等、入居者のできることを役割分担し、職員と一緒に準備・片付けを行っている。食事についても、入居者と職員が同じテーブルで、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>時間は、11時から17時までの間、入居者の希望に合わせて、毎日入浴できるようになっている。大切なコミュニケーションの機会として捉え、衣服選びから、入居者と職員と一緒に本人のペースに合わせてながら、ゆとりをもって支援している。また、入居者同士が、一緒に楽しんで入浴されることもある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメント時に入居者の生活歴や意向、好みを把握し、計画に反映することに努めている。具体的には、食事の準備や後片付けなど細かく役割分担している。芸達者の職員が多数いるとのことで、フラメンコ・ハワイアン・ギターと職員の特技を活かして、催し物など開催している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	近隣の陸上競技場へ散歩に行ったり、職員と一緒に買物に出掛けることを日常的に行っている。ドライブでは、季節を感じていただくために、藤・チューリップ・桜・コスモス等を見学に出かけている。社会との距離を身近に感じることができるよう、なじみの場所や、これまで生活していた場所を訪れるよう努めている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は「鍵をかけないケア」について理解をしており、居室やフロア間の出入口は開錠され、ユニット間の行き来は自由にできる。玄関は1階にあり、目が届かない為、治安の関係上施錠している。		入居者が窮屈な感じをもたれないよう2階には施錠はなく開放された工夫がなされているが、1階は広い駐車所に面しており、治安・安全面からもセンサー対応などが妥当と考えられ、今後の検討を期待したい。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署立会いの訓練を年に1回、自主訓練を年に数回、定期的実施している。近隣にも訓練参加の働きかけを行っている。対応マニュアルを作成し、飲料水等の備蓄もある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養バランスや水分摂取量は、主治医により指示を受け、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。栄養バランスについては、併設のデイサービス所属の栄養士に適時相談している。また1ヶ月に1回、栄養士が衛生管理の為、訪問している。食事及び水分の摂取量については、記録(チェック表)をとり、一人ひとりの状態把握に努めている。月初めには、体重測定を実施している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	壁には、写真や入居者と職員の手作りの作品が飾られ、季節感を演出する工夫が凝らされている。ホールからは、台所が見渡せ、食事準備の音や香りを通して、生活感を実感できる。ホールと通路では照明のライティングを変える等の工夫を行い、ゆったりと落ち着ける空間づくりの工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	在宅の延長線にある環境づくりに努め、本人の好みや慣れ親しんだ調度品・絵画等が持ち込まれている。家族の写真や職員が描いた本人の似顔絵、誕生日には必ず贈られる職員からのメッセージ入りの色紙等が、入居者ごとに工夫を凝らして、その空間に溶け込むようセンスよく、さりげなく飾られてあり、潤いのある生活の印象を受けた。天気の良い日は、必ず布団を干す等、日々の生活が心地良いものであるように努めている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			